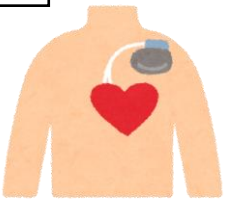


MRI検査の前に 体内デバイスの確認をお願いします

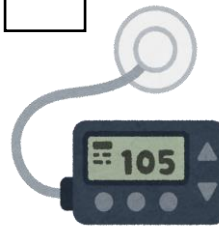
MRI検査は強力な磁場を使用しています。火傷や誤作動の危険があるため、体内にデバイスを留置する手術を受けたことがある方は、MRI検査を受けることが可能か確認する必要があります。

* 検査当日にデバイスが確認された場合は、安全のため検査をお断りさせて頂くことがあります。

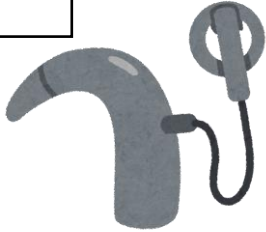
●体内デバイス例●



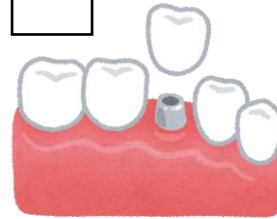
- ・ペースメーカー【禁忌】
- ・遺残リード【禁忌】
- ・心臓人工弁/ステント
- ・シャント/塞栓コイル
- ・その他心臓外科/循環器科によるデバイス挿入



- ・インスリンポンプ【禁忌】
- ・持続グルコース測定器
(リブレセンサー)【禁忌】



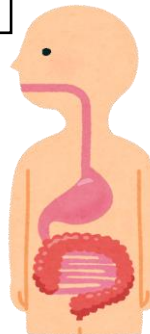
- ・補聴器【禁忌】
- ・人工内耳【一部禁忌】
- ・義眼
- ・アートメイク
- ・水頭症シャントバルブ



- ・歯科矯正
- ・インプラント
- ・義歯



- ・義肢
- ・整形外科手術による金属（チタン以外）



- ・気管カニューレ
(金属を含むものは禁忌)
- ・バクロフェンポンプ
(脳外に確認)
- ・胃瘻（当院のものは可）
- ・ストーマ
- ・皮下植込みポート用穿刺針

他院で留置したデバイスに関しては、他院に問い合わせ頂き、MRIが可能であるか確認をお願いします。
留置した製品の添付文書を持参いただければ、当院放射線科で調べることも可能です。

デバイスに関して不明点があれば、お気軽に担当医にご相談ください。